

部内記念祭祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長

慎んで申し上げます

親神様は陽気遊山を見たいと思召され 無い人間無い世界をお創め下さいましたが その後
も限らない親心を以てお育て下さいますお陰により漸く今日迄成人させて頂きました御高恩
の程 片時も忘れることなく朝夕御礼申し上げますが 本日は当教会創立○○周年記
念祭を執り行う喜びの日と相成りました

顧みますれば 昭和○○年四月二十六日 上級からお打ち出しの「十カ所の名称設立」のお
声を体して△△△△を初代会長として 横浜市保土ヶ谷区 町の借地借家ながら 又内容
も極めて不十分のまま、設立された教会でありましたが その後教祖七十年祭活動に真実の限
りを伏せ込む中 不思議／＼な理の動きを受けて 現在地五百平方メートルの境内地が与えられ
更にこの地上に百平方メートルの神殿兼教職舎が完成し 昭和○○年三月 日鎮座祭 翌 日
奉告祭が執り行われた次第でした

爾来 親神様の思召しを取次ぎ 教祖ひながたの道を伝えつゝ 役員よふぼく一同 酷暑嚴
寒を厭わず 続く教祖八十年祭の旬の御用にも総力を注いでいる中 二階建ての神殿百五十
平方メートル落成 昭和五十年 月 日鎮座祭 翌 日奉告祭を盛大につとめさせて頂く
ことが出来ました

ところが さあ九十年祭へと勇みに勇み立った矢先 △△△△の俄な出直しに続き その一
月後 前会長がその後を追うが如くこの世を去ったのであります まさしく暗夜に灯を失っ
たような嘆きに教会が一時啞然となりましたが 教祖ひながたの道すがらを偲び 上級会長
様始め役員よふぼく一同から真実溢れる激励を受けて 昭和○○年十月二十六日私が二代会
長の御任命を戴き 今日に至ったのであります

その後教祖百年祭直前の昭和六十年十一月二十六日には大教会の事情教会整理として当教会部内
の○○布教所長△△△△が○○分教会という名称の理を受け その会長に就任致しました
過ぎし○○年間のあの日この日を思い起こし感謝しつゝ、 只今から部内一同心を一つに揃え
て 何をどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます

今日の栄えある記念祭今後の新たな飛石とし跳躍台として新たな目標 すなわち“大教会
神殿ふしんへの伏せ込み” “おつとめの充実” “各よふぼく家庭より別席者を” “を三代指針
として やがて三年半余り後に迎えます教祖年祭に向かつて ひのきしんの上につくしの上
に 或いは匂いがけお救けの上に心の限り力の限りつとめ切らせて頂きたいと固く心を定め
て居りますが 私達一同が東に西に南に北に馳せ巡りますすけ一条の先々にいよいよ不思議な
お働き深い親心を賜り 又人々の心は次々に更まり思召し下さる信神和楽親子団欒の陽気ぐらし
の世の状が一日も早く訪れますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

只今から過ぎし○○年間のあの日この日を改めて思い起こしつゝ、 一同心の襟を正して陽気
に勇んでたすけつとめをつとめさせて頂きます

この上は更に一手一つとなり一層教祖ひながたの道を更に身近に拝して にほいがけおたす
けに勇み立ち 旬々の理の御用に心の限り力の限り伏せ込ませて頂き 教勢の伸展を計って
参りますが 親神様には私達の馳せ巡る先々に不思議／＼な理の動きを次々お見せ頂き そ
の人々の心は次第に更まり思召し下さる陽気ぐらしの輪が これの教会周辺はもとより 所
属のよふぼくの近隣にも広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお
願い申し上げます